

日常的な安全指導における 一声(ひとこえ)事例

【安全教育の目標】

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



安全教育で
身に付ける力

危険を予測し回避する能力と、
他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成

生活
安全

交通
安全

災害
安全

安全教育の3領域

【安全教育の推進に向けて】

このシートは「安全教育プログラム（第17集）」（令和7年3月東京都教育委員会）の「必ず指導する基本的事項」に基づき、指導の際に参考となる「一声」をまとめたものです。安全教育の3領域「生活安全」、「交通安全」及び「災害安全」について掲載しています。

近年全国各地で発生している風水害や、近い将来起こりうる首都直下地震等の自然災害の状況、交通事故、犯罪等の社会的な情勢の変化など新たな課題も顕在化している状況があります。幼児・児童・生徒の安全対応能力を一層高められるよう、上記に示す3領域の安全について日頃から意識し、安全教育に取り組む必要があります。

このシートは、短い時間で確実に指導を実施する際に活用していただくことをねらいとしています。朝の会や帰りの会、避難訓練等の短時間での取組において、「一声」指導を実施し、幼児・児童・生徒の危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成を積極的かつ継続的に推進して下さるようお願いいたします。

令和7年3月



東京都教育委員会

一声（ひとこえ）事例チェックシート

【Ⅰ 生活安全】

Check☒

登下校時の安全	1－① 部活動で帰りが遅くなったときには、家が同じ方向の友達と複数で帰りましょう。	
	1－② 防犯ブザーの電池を点検しておきましょう。	
	1－③ 必ず指定された通学路を使って登下校しましょう。	
	1－④ 痴漢や盗撮等の被害にあった場合には、どうしたらよいでしょうか。	
校内での安全	2－① 環境整備から、安全確保を心がけましょう。	
	2－② 安全に活動したり、遊んだりするために、どのようなことに気を付ければよいでしょうか	
	2－③ 便利な道具も使い方次第で、危険な道具に変わってしまいます。	
	2－④ 雨の日には、校舎内だけでがをする生徒が増えてしまいます。けが人を出さないためにはどのようにすればよいですか。	
	2－⑤ 『〇〇〇』の放送があったときは、不審者の侵入があったときです。放送の指示をよく聞いて行動しましょう。	
	2－⑥ 不審者が侵入してきた場合は、先生の指示に従い、近くの教室に隠れたり、安全な場所に避難したりしましょう。	
	2－⑦ 自分や友達を守るための学習です。具体的なポイントを確認しながら参加しましょう。	
家庭生活での安全	3－① 家に入る前に、周囲を確認しましょう。	
	3－② 家の人とルールをつくり、家族みんなで安全の意識をもちましょう。	
	3－③ 密室状態になるエレベーターにはどんな危険がありますか。	
	3－④ 家の近くで、入りやすく見えにくいところはどこでしょうか。	
	3－⑤ 知らない人から、友達やクラスメイトについてきかれた場合でも、答える必要はありません。	
地域や社会生活での安全	4－① 繁華街や危険な場所で遊ばないようにしましょう。	
	4－② 街灯の少ない道や人通りの少ない道は避けるようにしましょう。	
	4－③ 『いかのおすし』の約束、全て言えますか。	
	4－④ 通学路にある『子供110番の家』の場所を覚えておきましょう。	
	4－⑤ 夜間は、犯罪が増えます。夜間の外出を控えましょう。	
	4－⑥ おかしいなあと思ったら、近くの大人やお店の人に助けを求めましょう。	
	4－⑦ 身近な場所での取組から、自分の役割を考えてみましょう。	
	4－⑧ 水難事故や転落事故など、不慮の事故に遭遇する危険性について考え、事故防止の具体策を考えましょう。	
スマートフォン等の使用時の安全	5－① スマートフォン等を使う約束を家族で話し合いましょう。	
	5－② 画面の雰囲気や優しい言葉だけでは危険を判断することが難しいため、フィルタリングを付けましょう。	
	5－③ メッセージやスタンプ、画像等を送る前に、相手やそれを目にする可能性がある周りの人の気持ちになって考えてみましょう。	
	5－④ SNSやオンラインゲームで知り合った人に、個人情報を伝えたり、実際に会ったりしてはいけません。	
	5－⑤ 写真・動画を撮影する前に、相手の許可を得ましょう。	
	5－⑥ 『ながらスマホ』は、事故のもとになるので、やめましょう。	
生命（いのち）の安全教育	6－① 自分の心と体は自分だけの大切なものです。他の人も同様です。	
	6－② 心と体には距離感があります。距離感が守られていない時にはどうすればよいでしょうか。	
	6－③ デートDVを知っていますか。	
	6－④ 被害に遭ったら、どのように対応すればよいでしょうか。	

◆指導したら、Check☒しましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集（令和7年3月）」（P.76～P.91）に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！

【Ⅱ 交通安全】

Check☒

道路の歩行と横断 及び交通機関の利用	1－①	歩道では、広がって歩かないようにしましょう。	
	1－②	通学路の中で、危険な場所、見通しの悪い場所はどこでしょうか。また、その危険を回避するにはどのような注意が必要でしょうか。	
	1－③	人も車も集まる場所が交差点です。自分は大丈夫という油断が危険を招きます。	
	1－④	青信号で横断歩道を渡る際は、交差点に入る自動車や横断歩道を渡る人にも気を付けましょう。	
	1－⑤	傘などで視界の悪い状況で道路を歩くとき、どのようなことに注意したらよいでしょうか。	
	1－⑥	夜間では、明るい色の服装や反射材を身に付けることで、車から見えやすくなり、交通事故を未然に防ぐ効果があります。	
	1－⑦	自分が自転車に乗っているとき、集団で横に広がって歩いている人たちを見たら、どのように思いますか。	
	1－⑧	踏切内に閉じ込められたら、非常ボタンを押しましょう。	
	1－⑨	高齢者の方や障害のある方が横断歩道を渡っていて、青信号の点滅が始まったのを見かけました。あなたはどのような行動をとりますか。	
	1－⑩	電車やバスに乗るときに、周りの人に迷惑をかけないように自分にできることを考えてみましょう。	
自転車の安全な利用 と点検・整備	2－①	歩道は歩行者優先です。自転車は、車道の左側を一列で走行しましょう。	
	2－②	習い事などで、夕方に自転車を利用する際には、ライトをつけて、運転に十分注意しましょう。	
	2－③	自転車は、車と同じ「車両」です。原則車道の左側を通行します。	
	2－④	自転車の各部分の役割を知り、乗る前に点検をしましょう。	
	2－⑤	もしも、あなたが自転車に乗っていて事故を起こしたら、加害者になり、保護者が多額の賠償金の支払いを求められることもあります。	
	2－⑥	ヘルメットをかぶっていれば、避けられるけがや助かる命があります。必ずヘルメットを着用しましょう。	
二輪車・自動車の 特性と心得	3－①	自動車は急に止まれません。時速40kmで走っている自動車が止まるまでには、どのくらいの距離が必要だと思いますか。(20m以上)	
	3－②	ヘルメットやシートベルトを着用していることで、衝撃を減らし、身を守ることができることを知っていますか。	
	3－③	自動車からは見えない場所があることを知っていますか。	
交通事故防止と安全 な生活	4－①	全国交通安全運動を知っていますか。私たちの地域では、どのような交通安全活動が行われているのでしょうか。地域の交通安全活動に参加しましょう。	
	4－②	警察や救急車を呼ぶときは、落ち着いて内容を伝えなければなりません。どのような内容を伝えればよいのでしょうか。	
	4－③	事故に遭遇して、けがをしたらどのようにすればよいですか。	
	4－④	自転車の危険な乗り方をする友達がいたら、勇気を出して注意しましょう。	

◆指導したら、Check☒しましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集（令和7年3月）」(P.76～P.91)に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！

【Ⅲ 災害安全】

Check☑

火災時の安全	1－① 慣れた校舎内、自分の家こそ、避難経路の確認をしましょう。	
	1－② コンロの火などがついていいるときは、その場を離れてはいけません。火元から離れなければならないときは、必ず火を消しましょう。	
	1－③ 火災が発生したとき、目の前に炎がなくても自分の身に危険が迫ることがあります。必ず口元をハンカチ等でふさぎ、煙を吸い込まないようにしましょう。	
	1－④ 火災が発生したとき、小さな炎のうちは、消火器などで火を消すことができます。消火器の正しい使い方を知っていますか。	
地震災害時の安全	2－① 普段から、物が『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』（おたい）場所はどこか、考えておきましょう。	
	2－② 廊下など、机がない場所で地震が起こったら、どのようにして自分の身を守りますか。	
	2－③ 『おかしも』を守らないと、どのような危険があると考えられますか。	
	2－④ ○○前の廊下と食堂前の天井が落ちて通れません。どこを通ると安全に校庭に避難できますか。	
	2－⑤ いざというときに備えて、事前に避難経路や集合場所、連絡方法などをあらかじめ家族で話し合いましょう。	
火山災害時の安全	3－① 火山が噴火したら、テレビ等で正しい情報を確認し、必要に応じて指定避難所へ行きましょう。	
	3－② 火山が噴火したら、どのような被害や影響があるでしょうか。	
気象災害時の安全	4－① 雨が短時間でたくさん降ると、どのような場所が危険になるでしょうか。	
	4－② 野外で活動中に雷が鳴ったら、すぐに中断して、建物の中に避難しましょう。	
	4－③ 室内にいるとき、竜巻が近付いてきたら、どうしたらよいか調べましょう。	
	4－④ 雪が降ると、道路が凍結するなど普段の道路の状況と変わります。そのような状況で、あなたは登下校のときにどのようなことに気を付けますか。	
	4－⑤ 大雪の予報が出たら、備蓄の状況を把握し、不要な外出は控えるようにしましょう。	
	4－⑥ ハザードマップを確認して、身近な地域の危険箇所を確認しておきましょう。	
原子力災害時の安全	5－① 人体に有害な放射性物質を吸い込んだり、室内に持ち込んだりしないためにはどのような対策が必要でしょうか。	
	5－② 放射線の種類と性質について調べてみましょう。	
避難所の役割と貢献	6－① 『一時集合場所、避難場所、避難所』の違いを言えますか。	
	6－② 大きな災害が発生すると、学校が避難所となることが考えられます。地域の一員として、中学生の活躍が期待されています。	
	6－③ 災害時、中学生としてできることは何かについて考えましょう。	
	6－④ 学校や地域の『防災倉庫』、『備蓄倉庫』を見てみましょう。	
災害への備えと安全な生活	7－① 災害から自分の命を守るには、日頃の訓練が大切です。	
	7－② 日頃から、緊急時の連絡方法について家族や親族と話し合っ、確認しておきましょう。	
	7－③ 災害時に何が必要か、考えてみましょう。	
	7－④ 血を流して倒れている人を止血するとき、何に気を付けますか。	
	7－⑤ 政府や自治体で安全・安心を支えるのが、公助の役割です。	
	7－⑥ 自主防災組織に期待されていることは何か、調べてみましょう。	
弾道ミサイル発射時の安全	8－① 『Jアラート』が流れたら、落ち着いて、直ちに避難行動をとりましょう。	
	8－② 屋外にいる場合は、近くの建物の中や地下に避難します。屋内では、窓から離れて身を守る姿勢をとります。	

◆指導したら、Check☑しましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集（令和7年3月）」（P.76～P.91）に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！